

令和3年度厚生労働科学研究費補助金
(食品の安全確保推進研究事業)

分担研究報告書

5. 乳幼児を対象とした玩具の取り扱いに関するアンケート調査

研究協力者	湯川 慶子	国立保健医療科学院	首席主任研究官
研究代表者	戸次 加奈江	国立保健医療科学院	主任研究官
研究協力者	吉田 都美	京都大学大学院医学研究科	講師

研究要旨:【目的】近年、子供の成長や健康影響に対する化学物質曝露による影響が着目される中、特に柔軟性や難燃性のある合成樹脂やゴム製品を作る上で多くの可塑剤・難燃剤が使用されている。これらの原材料から成る玩具は、小児が日常生活を送る上でも接触頻度が非常に高く、化学物質に対する特異的な曝露機会となり、特に、感受性の高い乳幼児期に玩具を口に入れるマウシングによる経口曝露は、化学物質曝露による乳幼児へのリスクを評価する上でも無視できないものである。そこで、本研究では、乳幼児を対象に、玩具の使用による可塑剤・難燃剤成分に関する曝露評価を行うため、室内行動調査から実際に室内で過ごす乳幼児のマウシング行動を調べると共に、日常生活における玩具の使用状況など、玩具の安全管理に関する実態について調査することとした。

【方法】アンケート調査は、全国の約120万人のモニターを有する株式会社マクロミルに委託し、同社のモニターで子供の性別や年齢等についてスクリーニングを行い、地域による生活環境の差などを均一化した乳幼児をもつ母親328名を対象とした。1日の活動時間（睡眠、室内遊び、昼寝、食事 etc.）や玩具にまつわる事故事例など、玩具の使用に関するリスクや注意喚起の必要性など、安全管理に関する実態について尋ねた。

【結果・考察】本アンケート調査では、対象者全体のうち60名（17%）がおしゃぶりを使用する習慣があり、その多くは「寝るとき」（49%）や「泣くとき」（31%）に使用していた。使用頻度が高かった玩具は、人形（17%）、歯固め（15%）、ボール（14%）であった。使用頻度の高い玩具の素材は、プラスチック（60%）、布（20%）、木（11%）の順で、口に入れる頻度の高いものとしては、おもちゃ（25%）のほか、手足（27%）、布（17%）などが挙げられた。また、おもちゃにまつわる事故事例としては、小さなおもちゃの誤飲のほか、兄弟のおもちゃの誤飲やおもちゃの部品を飲み込むなどの経験が報告された。さらに、プラスチック製の玩具に関する規制の存在は十分に知られておらず、事故発生 of 具体例や予防方法についての啓発が必要である。

【結論】調査対象者のうち17%がおしゃぶりを使用する習慣があり、主に寝るときや泣くときに使用する傾向があつた。玩具の使用については、人形、歯固め、ボールの使用頻度が高く、これらの素材としては、プラスチック（60%）、布（20%）などが多い傾向が見られた。さらに、口に入れる頻度の高いものは、おもちゃ（25%）のほか手足が挙げられ、小さなおもちゃの誤飲や兄弟のおもちゃの誤飲、部品を飲み込むなどの事故経験が報告された。本調査対象者の中で、プラスチック製の玩具に関する化学物質の規制の存在は十分に知られていなかったことから、今後は、事故発生 of 具体例や予防方法についての啓発が必要であることが示唆された。

A. 研究目的

近年、子供の成長や健康影響に対する化学物質曝露による影響が着目される中、特に柔軟性や難燃性のある合成樹脂やゴム製品を作る上で多くの可塑剤・難燃剤が使用されている。これらの原材料から成る玩具は、小児が日常生活を送る上でも接触頻度が非常に高く、化学物質に対する特異的な曝露機会となり、特に、感受性の高い乳幼児期に玩具を口に入れるマウシングによる経口曝露は、化学物質曝露による乳幼児へのリスクを評価する上でも無視できないものである。そこで本研究では、乳幼児を持つ親を対象に、玩具の使用による可塑剤・難燃剤化合物に関する曝露評価を行うため、アンケート調査から室内で過ごす乳幼児のマウシング行動について調査することとした。

B. 研究方法

1. 調査方法

本調査は、乳幼児の1日の活動時間の状況(睡眠、室内遊び、昼寝、食事 etc.) や玩具にまつわる事故事例及びその対処方法、親の玩具に関する法規制の認識など、玩具の使用状況に関して幅広く情報収集することで、玩具使用のリスクや安全管理に関する実態を把握し、今後、玩具による事故予防のための方策や親への玩具に関する効果的な注意喚起等の示唆を得るために行った。

調査に際しては、幅広くデータを得るため、全国の約120万人のモニターを有する株式会社マクロミルに委託し実施した。このとき初めに50,000人を対象に、子どもの年齢や性別でスクリーニングを行い、その後、地域による生活環境の差などが均一化された328人を対象者として選定し、インターネットによるアンケート調査を行った。

2. 調査項目

質問票は、埼玉県和光市の施設で行った行動調査項目(乳歯本数、おしゃぶりの使用、使用頻度の高い玩具、口に入れる頻度の高いもの、玩具に関する事故の発生)に加えて、日常の子供の生活パターンや、玩具に関する化学物質の規制の認知について調べた(Appendix)。

3. 倫理面での配慮

本アンケート調査は、国立保健医療科学院倫理委員会の承認を得て実施したものである(承認番号:NIPH-IBRA#12331)。

C. 結果及び考察

1. 対象者の属性

対象者は全て0~36カ月の乳幼児を持つ母親であり、平均年齢は32.0歳(20~46歳)であった。また、調査の対象となった乳幼児の平均月齢は10.6カ月(1~22カ月)、男児49.4%、女児50.6%の比率であった(Table 5-1)。

(乳歯本数)

乳歯の状況は、物を噛むことと強い関連性が予想されるため、本調査では乳幼児の乳歯の本数を0、1~3、4~6、7~9、10本以上の区分に分け、対象者に尋ねた。調査の結果、乳歯の本数は、成長に伴い月齢が高くなるにつれて増加する傾向にあったものの、マウシング行動との関連について本調査結果のみでは明らかにできず、引き続き調査する必要がある。

(おしゃぶりの使用)

おしゃぶりは、シリコンや天然ゴムを素材とするものであり、おしゃぶりを使用する習慣のある乳幼児の場合、マウシング行動時間の大部分を占めるため、使用の有無と使用するタイミ

ングを調査した。その結果、対象者全体のうち60名(17%)がおしゃぶりを使用する習慣があり、その多くは「寝るとき」(49%)や「泣くとき」(31%)に使用している状況であった。その他の回答として、「食前」、「食後」、「疲れたとき」、「子どもの気が向いたとき」、「時間のあるとき」という回答が20%程度であった。これらの結果から、おしゃぶりを使用する習慣のある乳幼児の場合は、室内以外の、すなわち外出時や保育施設に預けている間にもマウシングを行っていることを考慮すると、1日のマウシング行動時間は比較的長くなるものと予想される。

(使用頻度の高い玩具)

日常生活の中で、最も使用頻度の高い玩具を8分類(人形、ブロック、積み木、ミニカー、ボール、歯固め、おしゃぶり、その他)で尋ね、その玩具がどの素材でできているのか、5分類(布、木、金属、紙、プラスチック、その他)で尋ねた。さらに、使用している玩具が「指定おもちゃ」に該当するか判断する目的で、対象年齢についても回答頂いた。

はじめに、全体の結果として、使用頻度が高かった玩具として、人形(17%)、歯固め(15%)、ボール(14%)であった。月齢別(0~6、7~12、13~18、19~36カ月)では、0~6カ月では歯固め(35%)、7~12カ月ではブロック(24%)、13~18カ月では人形(21%)やミニカー(18%)、19~36カ月ではミニカー(26%)や人形(24%)の使用頻度が高かった(Fig. 5-1)。続いて、使用頻度の高い玩具の素材を集計したところ、プラスチック(60%)、布(20%)、木(11%)の順となった(Fig. 5-2)。

(口に入れる頻度の高いもの)

口に入れる頻度の高いものとしては、おもちゃ(25%)のほか、手足(27%)、布(17%)な

どが挙げられた(Fig. 5-3)。

(玩具に関する事故の発生)

乳幼児の室内での事故事例の中でも、玩具に関連したものは、毎年多くの報告が消費者庁に届けられている。こうした事故の大部分は、小さな部品等の誤飲や乾電池の破裂・爆発事故など、物理的因子を要因とするものが多く散見され、消費者庁からは、0~6歳児の子どもに起こりやすい事故のひとつとして、玩具などの小さなものの誤飲防止について注意喚起されているところである^{1,2)}。

玩具の誤飲については、手や物を口に入れる乳幼児の発達と共に生じるマウシング行動が主な要因と考えられることから、こうした事故の経験があるかどうか、またさらに玩具に関する安全管理について幅広く情報収集するため、これまでの玩具にまつわる事故や体調不良になった経験につき自由記載による回答を得た。

その結果、事故経験のあった乳幼児は全体の7%(28名)であり、そのほとんどが自宅で生じたものであり、続いて幼稚園・保育園、公共施設、公園での事例が僅かにあった(Fig. 5-4)。

また、自由記載からは、最も事例の多かったものとして、小さなおもちゃを飲み込んでしまった事例、兄弟のおもちゃを飲み込んでしまった事例、などがあった。このうち、代表的な事例を抽出して示した(Table 5-3)。

本研究の事故は、回答者である親が事故と感じた経験を集めた主観的なデータであり、公的な機関や医療機関が認定したものではないことに注意を要するが、少なくとも、子供が何らかのおもちゃやおもちゃ類似のものにより危険を感じる経験が8%の親が経験されていたことから、類似の事例を集めて、事故予防や注意を呼び掛ける必要がある。

(玩具に関する化学物質の規制について)

米国では、2007年にリコールの対象とされた中国製の「きかんしゃトーマス」から、塗料に許容量を超える鉛が含まれていたことを米国消費者製品安全委員会が指摘し、自主回収に至った³⁾。

今回の調査においては玩具に関する化学物質の規制を知らない者が85%と多かった(Fig. 5-5)。したがって、おもちゃの誤飲に比べて知られていない、おもちゃの化学物質の危険性や規制についての認識率を高めるための啓発が必要である。さらに、このような化学物質を要因とする事故や健康影響は、曝露を受けた後、発症までに長期の時間がかかることや、玩具との明確な因果関係が認定されにくいことから、長期的疫学調査の実施などが必要と考えられる。

(国民への啓発について)

おもちゃは子どもの好奇心を育み、親子の絆を深めることができるが、誤飲や尖った部分で負傷するなど事故も相次いでいる。そこで、親および子どもの周囲の大人への注意喚起・啓発として以下を提案したい。

まず、ビー玉等の誤飲しやすい小さなおもちゃに注意すべきである。乳幼児はいったん詰まったものを飲み込んだり吐き出したりする力が弱いので、物が誤って気管に入った状態のままとなりやすい。小さなおもちゃの具体例としては、消費者庁の調査で、子の誤飲経験を持つ保護者302人から、ビー玉・おはじき(59人)、ビーズ製玩具(45人)、小さなボール(27人)などが挙げられた。直径30mm以下が全体の80%を占めており、子どもが届かない位置に置くようにしたい⁴⁾。

また、おもちゃのパッケージに記載されている「対象年齢」は、楽しく遊ぶためではなく、安全性も含むため、対象年齢の厳守が必要であ

る。各メーカーも製品の安全性の検査をしており、低い月齢向けのおもちゃは、食品衛生法の原材料や着色料などの規制に基づいて製造されている。したがって、兄弟姉妹、年の離れた子供と一緒に遊ばせる場合には、月齢の上の子供のおもちゃを誤飲等しないように十分な注意が必要である。

さらに、おもちゃの安全基準としては、一般財団法人日本玩具協会の「STマーク(Safety Toyマーク)」がある。STマークは、同協会が安全面に配慮された玩具に貼付され、14歳以下の子ども向け玩具に付けられ、「安全面について注意深く作られたおもちゃ」として玩具業界が推奨するものである。同協会が策定した玩具安全(ST)基準に適合していることを検査で確認した玩具はSTマークが表示され、対象年齢が記載される。対象年齢が低い玩具は、部品が喉に詰まらない大きさや、部品が外れにくい、尖った部分がない等、より安全性に配慮した設計となっている。このようなおもちゃを選ぶことがひとつの安全の担保にはなるが、STマークは義務ではなく業界の自主基準に過ぎないことから、やはり最終的には、おもちゃを与える親の注意が重要となる。

(消費者リテラシー)

消費者政策においては、消費者基本法により「消費者の権利の尊重」と「消費者の自立支援」を基本理念とし、自立した消費者の育成を政策の大きな柱にしている。消費者にとって必要な「コンシューマーリテラシー」をどこで、どのように身に付けるべきかの習得機会の確保に関する議論では、国内外の消費者教育を比較し、おもちゃ選びに関する消費者リテラシーを高める必要がある。すなわち、同じ製品を購入するにしても、用途によって要求される注意力は異なり、例えば子供が口に入れやすいものにつ

いては、安全な素材のものを選ぶなど、消費者が選ぶ力、意思決定する力を高める必要がある。

今後、国としても、様々な消費者教育を行って消費者のリテラシーを高めていく必要がある。消費とは、購入の際の意思決定に限らず、それを正しく消費（使用）することも含むため、たとえば、本研究の結果から、母親および父親のおもちゃの選び方、遊ばせ方に関して、パンフレット等を作成して教育・啓発していくことが望まれる。

D. 結論

本アンケート調査では、対象者全体のうち 60 名 (17%) がおしゃぶりを使用する習慣があり、その多くは「寝るとき」(49%) や「泣くとき」(31%) に使用していた。使用頻度が高かった玩具は、人形 (17%)、歯固め (15%)、ボール (14%) であり、使用頻度の高い玩具の素材は、プラスチック (60%)、布 (20%)、木 (11%) の順で、口に入れる頻度の高いものとしては、おもちゃ (25%) のほか、手足 (27%)、布 (17%) などが挙げられた。また、小さなおもちゃの誤飲のほか、兄弟のおもちゃの誤飲やおもちゃの部品を飲み込むなどの経験が報告された。プラスチック製の玩具に関する規制の存在は十分に知られておらず、事故発生の具体例や予防方法についての啓発が必要である。

E. 参考文献

1. 消費者庁. 子どもを事故から守る！事故防止ポータル.
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/
2. 消費者庁. 子どもを事故から守る!!事故防止ハンドブック.
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/project_002/

3. 米国消費者製品安全委員会. Consumer Product Safety Commission. RC2 Corp. Recalls Additional Thomas & Friends™ Wooden Railway Toys Due to Violation of Lead Paint Standard.
<https://www.cpsc.gov/Recalls/2007/rc2-corp-recalls-additional-thomas-friends-wooden-railway-toys-due-to-violation-of-lead>

4. 消費者庁. 消費者安全法第 23 条第 1 項の規定に基づく事故等原因調査報告書. 平成 29 年 11 月.

https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/pdf/report_013_171228_0001.pdf。

5. 神山久美、中村年春、細川幸一. 新しい消費者教育：これからの消費生活を考える. 慶應義塾大学出版会. 2018

F. 研究発表

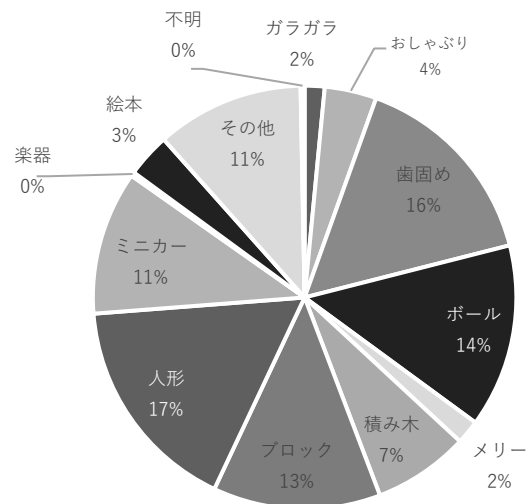
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

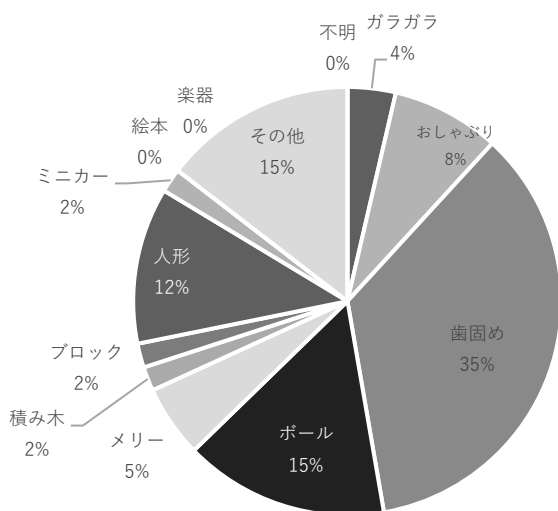
なし

Table 5-1. web アンケート調査対象者の基本属性 (n=328)

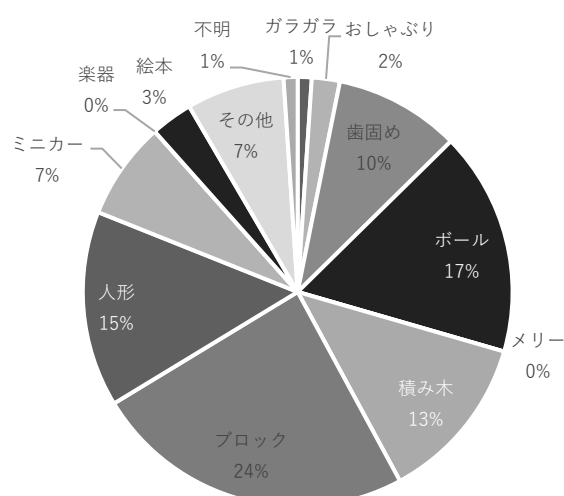
	調査項目	人数	%
性別	女性	328	100.0
年齢	20～25	26	7.9
	26～30	103	31.0
	31～35	120	36.0
	36～40	68	20.0
	41～45	10	3.0
	46～	1	0.3
地域	北海道	13	4.0
	東北地方	20	6.1
	関東地方	99	30.0
	中部地方	71	21.0
	近畿地方	49	14.0
	中国地方	30	9.1
	四国地方	10	3.0
	九州地方	36	11.0
世帯年収	200万円未満	12	3.7
	200～400万円未満	42	12.0
	400～600万円未満	100	30.0
	600～800万円未満	63	19.0
	800～1000万円未満	37	11.0
	1000～1200万円未満	14	4.3
	1200～1500万円未満	4	1.2
	1500～2000万円未満	3	0.9
	2000万円以上	—	—
	わからない・無回答	53	16.0
	職業	公務員	16
経営者・役員		1	0.3
会社員(事務系)		53	16.0
会社員(技術系)		22	6.7
会社員(その他)		29	8.8
自営業		3	0.9
自由業		2	0.6
専業主婦(主夫)		158	48.0
パート・アルバイト		38	11.0
学生		—	—
その他		4	1.2
無職		2	0.6
月齢 (カ月)		0～6	110
	7～12	95	29.0
	13～18	61	18.0
	19～36	62	18.0
子の性別	男児	162	49.0
	女児	166	51.0



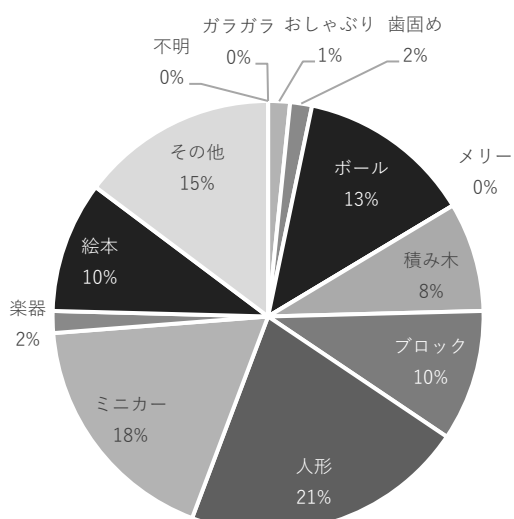
全体



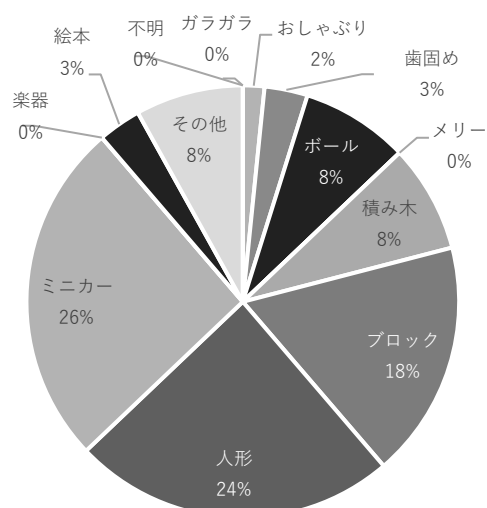
0~6カ月



7~12カ月



13~18カ月



19~36カ月

Fig 5-1. 使用頻度の高い玩具（全体、月齢別）

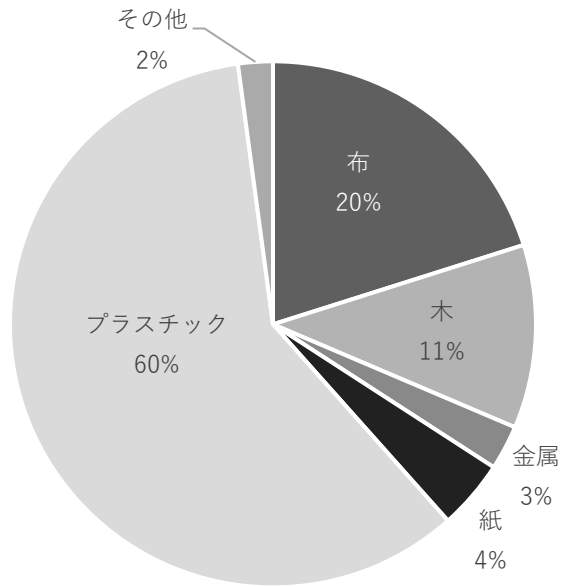


Fig 5-2. 使用頻度の高い玩具の素材（全体）

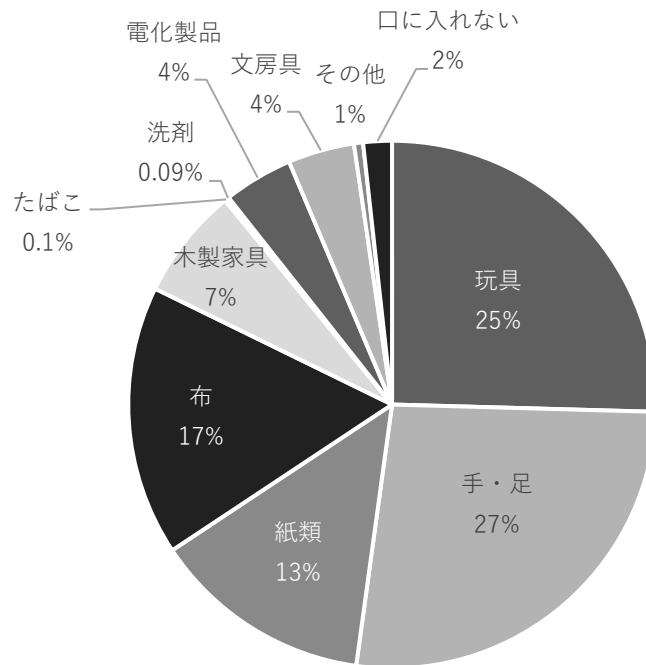


Fig. 5-3 口に入れる頻度の高いもの（n=328）

Table 5-2 乳歯の本数 (n=328)

乳歯の本数	月齢ごとの人数 (人)			
	0~6	7~12	13~18	19~36
0本	82	9	0	0
1~3	30	20	4	2
4~6	4	52	15	6
7~9	1	23	24	7
10本以上	1	6	27	50

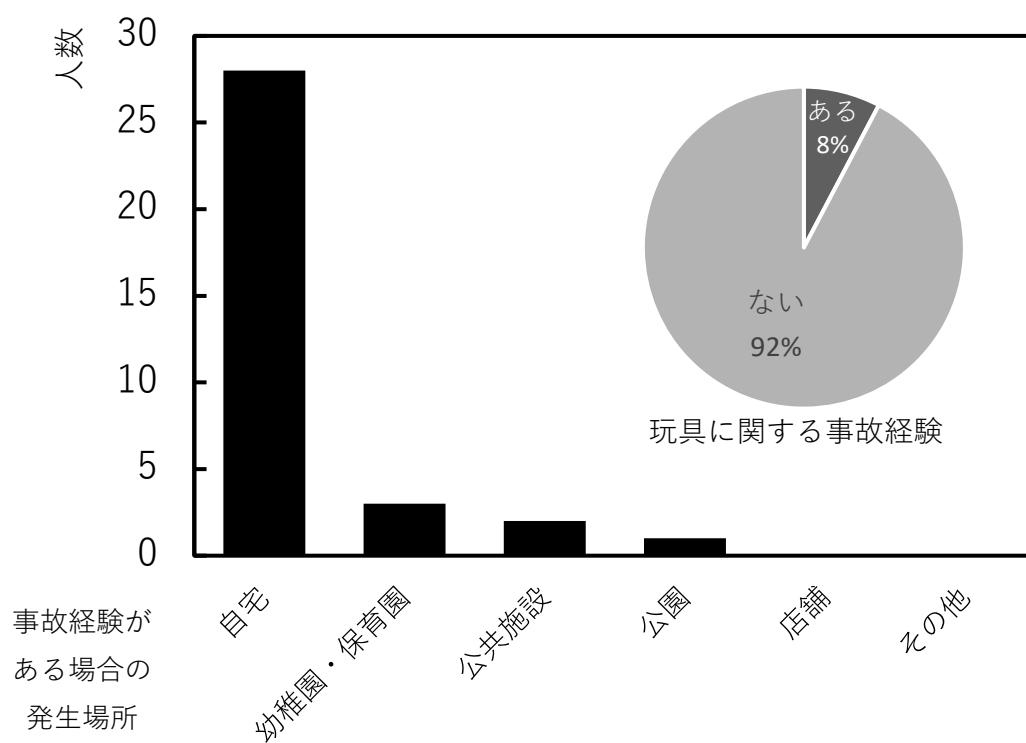


Fig. 5-4 玩具の使用に関連した事故経験の有無と発生した場所 (n=328)

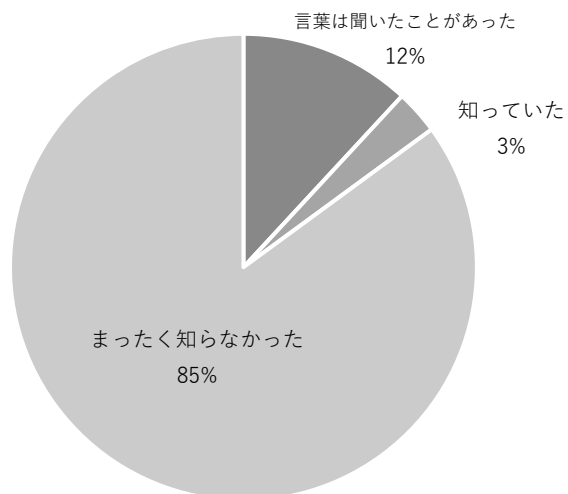


Fig. 5-5 玩具に含まれる化学物質の規制への認識 (n=328)

Table 5-3 事故の具体例（抜粋）

紙	10ヶ月の子どもが、ペットボトルのラベルを口に入れて吐いた
	9ヶ月の子供が祖父母からもらったパズルを誤飲した
	木のおもちゃの裏に紙のシールが付いていて食べた
	絵本の紙を間違えて口に含んでしまった
	7ヶ月の乳児が、おもちゃが入ってた紙箱を食べてむせた。
兄弟	上の子が貼ったシールを剥がして食べていた 気づいたのは便といっしょ出たから
	お姉ちゃんのシールや紙などを食べて大量に吐いた
	6ヶ月の乳児が、兄のゴムのおもちゃ（大きめ）を飲み込み、後日ウンチで出てきて誤飲が発覚した。
	上の子達のおもちゃのブロックが落ちていて口の中に入れていた。 飲み込みはしなかったが、噛んだのか歯茎が少し腫れてしまった。
誤飲	オモチャを飲んだ（4件）
	スーパーボールを口に入れていた。もぐもぐしていると思ったら、口の中に入っていて吐かせた
	ブロックで遊んでいたら数が減っていて、急に咳き込んだ
	転がっておもちゃのお金を持っていたら、口に落ちてしまいつまりかけた。
	一歳の子供が小さなブロックを口にいれとれなくなった。
	10ヶ月の乳児が小さなブロックを誤飲し、咳が止まらなかった
塗料	色付きの積み木で遊んでいる最中に、塗料が口の周りにつき、その後お腹の調子が悪そうだった。
	クレヨンを食べちゃって、口の中がクレヨンの赤色で真っ赤になった。なかなか口の中についてしまうとお水を飲ませるかどしかなので、あたふたしてしまった。
	6ヶ月の乳児がガラガラを舐めていたら、音の出るガラガラから黒い液体？が出てきて慌ててガラガラを捨てた。
部品	おもちゃの部品を口に入れてしまう
	半年くらいのときにおもちゃの付属品を飲み込んでしまった。その後しばらくはハラハラして大変だった。
	プレイジムで遊んでいたら壊れたおもちゃを補修テープで止めていたのでそのセロテープをいつの間にか飲み込んでいた
	シールを食べちゃった。次の日排泄物と一緒に出てきた。
	木のおもちゃで遊んでいる時に木を食べちゃった。体調は悪くなさそうだったが、心配になった。
	1歳1ヶ月の頃、子供の就寝後にプラスチック製のフォークの先がないことに気づき家中を探したが見つからず。誤飲したと仮定し病院へ。レントゲンにも写らなかったが、2日後にうんちから見つかった。
	5ヶ月の子供がボタンを口に入れて飲み込みそうになった。
	プラスチックのシールを飲み込んで咳き込んだ
	事故が起きそうになった話ですが、アンパンマンよくばりビジーカーの金具が不良品で外れやすくなっていて外れた。気づかなければ食べていたかもしれない。すごく怖かった。
	おもちゃの小さい部品を口に入れてしまった。
11ヶ月の乳児がキーホルダーに着いていた小さな鈴を舐めていたので飲み込みそうになった	
1歳9ヶ月頃、ストローに付いた笛を吹いていたらストローの部分を噛んで砕いてしまい、破片が見つからないので飲み込んでしまったと思う。飲み込めるくらい小さな破片なのでそのうち便から出るかもしれないと思い、その間痛がったり体調に異常はないか気をつけて観察しながら毎日便も見ていたが結局見つからず、体調に異常もなかった。	

アンケート調査票

アンケートにご協力いただける場合は画面の指示通りにお進み下さい。ご協力いただけない方は「回答をやめる」ボタンを押してアンケートの回答をおやめください。回答にかかる時間は10分程度です。

質問と全ての選択肢をよく読んでから、あなたに一番当てはまる答えを選んでください。ただし、回答したくないと思ったら、「回答をやめる」ボタン、あるいはブラウザを閉じて、途中でやめていただいても構いません。

また、設問の中で、精神的、身体的な状態をお伺いする項目がありますが、皆様のありのままのお気持ちをお答えいただけますと幸いです。ご回答いただいた内容は、統計的に処理いたしますとともに、調査目的以外には使用いたしません。また、無記名でお答えいただきますので、ご迷惑をおかけすることはございません。調査結果は、個人が特定されないかたちで、学会や学術雑誌などで報告されることがあります。調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

1. お子様についてお聞きします。

(1) お子様の性別と現在の年齢（月齢）を教えてください。

性別： 1.男 2.女

※（0, 1, 2歳のお子様は複数いらっしゃる場合は、お一人分ずつ入力してください。）

（ ）歳（ ）カ月

(2) ご兄弟はいますか。

1. いる 2. いない →質問 (4) に進んで下さい。

(3) ご兄弟がいる場合、年齢を教えてください。

1人目：（ ）歳（ ）カ月 性別： 1.男 2.女
 2人目：（ ）歳（ ）カ月 性別： 1.男 2.女
 3人目：（ ）歳（ ）カ月 性別： 1.男 2.女

～～以下から本調査～～

(1) お子様の現在の乳歯の本数を教えてください。

1. 0本 2. 1～3本 3. 4～6本 3. 7～9本 4. 9本～

(2) 普段の生活でおしゃぶりを使用されていますか。

「はい」と回答された場合、1日あたりのおしゃぶりの平均的な使用時間を記入してください。

1. はい → おしゃぶりの使用時間 _____ 時間/日 2. いいえ

└─→ 質問 (4) に進んで下さい。

- (3) (2)で「はい」と回答された場合、おしゃぶりを1番使うのはお子様がどんなときですか（複数回答可）。
1. 寝るとき
 2. 食前
 3. 食後
 4. 泣くとき
 5. 疲れたとき
 6. その他（ ）

2. お子様のおもちゃについてあなたのお考えや経験をお聞きします。

(4) これまでに、お子様がおもちゃで遊んでいる時に、事故や体調不良などが起きたことがありますか？

1. はい
 2. いいえ
- └─┬─▶ 質問(9)に進んで下さい。

(5) (4)で「はい」と回答された場合、どこで事故がおきましたか？

1. ご自宅
2. 幼稚園・保育園
3. 公共施設
4. 公園
5. 店舗
6. その他（ ）

(6) (4)で「はい」と回答された場合、どのような事故でしたか？

(7) (4)で「はい」と回答された場合、お子様の体調不良や事故が生じた際に、あなたはどのように対処しましたか？

1. 水を飲ませた
2. 牛乳を飲ませた
3. はかせた
4. 逆さまにした
5. 救急車を呼んだ
6. 病院に連れて行った
7. その他（ ）

(8) 体調不良や事故の状況を例にならって、簡単に教えてください。

例：6カ月の乳児が、ぬいぐるみの金具をなめたあとに、顔色が悪くなった。

回答（ ）

(9) お子様のおもちゃ等による事故（なめるなどの誤飲、口からの事故等に限りません）を防止するために、どのような対策をとっていますか？（あてはまるものすべてを選択してください）

1. おもちゃ等の素材に気を付けている
2. 危険な部品をとってから、子供にあたえている
3. 対象年齢やSTマーク等の表示を確認するようにしている
4. 口に入らない大きさのものを選んでいる
5. その他（ ）

3. お子様の様子についてお聞きします。

(10) 普段（平日）のお子様の1日の活動状況を教えてください。

（例として、1日の行動内容が以下のタイムテーブルの様な場合、活動内容は記入方法の例の様に記入します。

例を参考にして、1日の活動内容をご記入ください。）

(1日の行動内容の例)

行動	時間																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
睡眠	←————→																			←————→				
食事							↔				↔								↔					
室内遊び									←————→						←————→			←————→ 児童館						
外出												←————→			←————→									
室内																								
その他							↔																	

(記入方法の例)

行動内容

1. (睡眠) 1 : 00 ~ 6 : 00
2. (朝食) 7 : 45 ~ 8 : 30
3. (室内遊び(自宅)) 9 : 30 ~ 11 : 45
4. (昼食) 11 : 50 ~ 12 : 30
5. (外出(リトミック)) 13 : 15 ~ 15 : 20
6. (夕食) 18 : 30 ~ 19 : 10

(↓こちらにご記入下さい)

行動内容

1. () : ~ :
2. () : ~ :
3. () : ~ :
4. () : ~ :
5. () : ~ :
6. () : ~ :
7. () : ~ :
8. () : ~ :

4. お子様が使うおもちゃについてお聞きします。

(11) 普段お子様は、物や手、足などを口に入れることがありますか？

1. はい
2. いいえ

(12) (11)で「はい」と回答された場合、どのような物を口にいられますか？

当てはまるもの全てを選んで下さい。

1. おもちゃ
2. 手・足
3. 紙類
4. 布
5. 木製家具(テーブルなど)
6. たばこ
7. 洗剤
8. 電化製品(電池、コード類など)
9. 文房具(くれよん・鉛筆・消しゴムなど)
10. その他 ()

(13) (11)で「1. はい」を選択された方に伺います。

普段お子様は、お部屋の中でどのようなおもちゃで遊ばれていますか？

遊ぶ頻度の多いものを5つまでご記入下さい（分かる範囲でおもちゃの情報をご記入下さい）。

【おもちゃの情報を記入する際に以下の様な分類をご参考ください】

- 種類 1. 人形 2. ブロック 3. つみ木 4. ミニカー 5. ボール 6. 歯固め
7. おしゃぶり 8. その他（ ）
- 素材 1. 布 2. 木 3. 金属 4. 紙
5. プラスチック（ポリスチレン（PS）、ABS樹脂（ABS）、AS樹脂、
ポリ塩化ビニル（PVC）、ポリプロピレン（PP）、熱可塑性エラストマー（TPE））
- 対象年齢 1. 0カ月～、 2. 3カ月～、 3. 6カ月～、 4. 1歳～、 5. 2歳～、 6. 3歳～、 7. 4歳～、
8. 5歳～、 9. 6歳～、 10. 7歳～、 11. 8歳～、 12. 9歳～、 13. 10歳～

	種類	年代	素材	対象年齢	生産国
玩具1					
玩具2					
玩具3					
玩具4					
玩具5					
玩具6					
玩具7					
玩具8					

(14) 日本を含む主要な国々ではフタル酸エステル系可塑剤の使用に関する規制が行われています。

この成分は、こどものおもちゃにも使われるプラスチック製品やウレタン製品等にも含まれています。

あなたは、このフタル酸エステルに関する規制をご存じでしたか？

1. 言葉は聞いたことがあった
2. 知っていた
3. まったく知らなかった

以上でアンケートは終了です。ご回答に漏れがないか改めてご確認ください。

ご多忙の中、アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。